

中学校3年間の環境学習 〔1年生〕 環境学習への取組み

対 象 : 中学校1年生

教 科 : 総合・行事

関連する単元: 総合「稲武野外学習中の環境学習に向けた取組み」

時間数 : 15時間

【単元の概要】

学習の背景

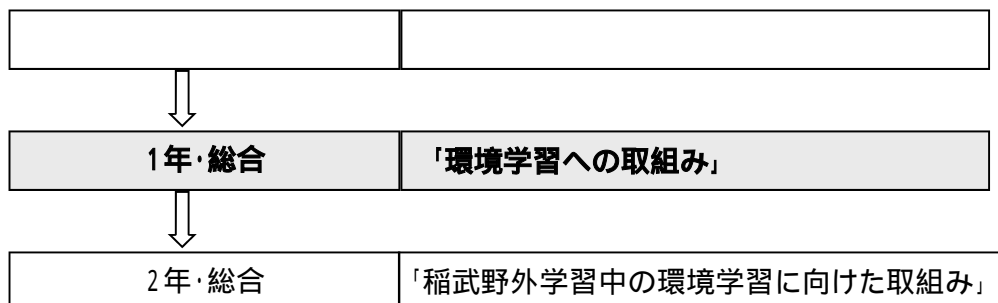
入学時より、3年間の行事（1年生：職場訪問、2年生：稲武野外学習、職業体験、3年生：修学旅行）を見通し、環境学習と職業学習を2本柱として総合的な学習の時間を展開してきた。人と自然との関わりを学び、人と自然、人間同士の共生について考えることのできる生徒の育成を目指すこととした。

1年生は3年間の中での導入段階として捉え、環境学習への関心を高める時期としてこどもエコクラブに学年として入会すると共に、環境学習の内容や行事を設定した。

2、3年生は3年間の中での展開段階として捉え、学年行事に合わせて、2年生を自然環境を主とした環境学習とし、3年生を都市環境を主とした環境学習とした。

そして、3年間の集大成として、修学旅行における環境学習を中心とした、学年集会での発表と全校集会での発表を行うこととした。

単元の位置づけ



単元のねらい

- ・身の回りの生活を見つめ直すことで、環境問題に関心を持ち、学年の環境目標に向けて、自分にできる取組みを考えさせる。

概 要

導入は、「ものを大切にしよう！」という提案をすることで、身の回りの生活を見つめ直し、環境問題に関心を持つようにした。展開は、3 Rの学習から入ることにより、自分の生活を振り返り、考えを深めることに始まり、その後の校外学習へのつながりを重視した。まとめでは、校外学習で学んだことをまとめ、拡大掲示物として校内に掲示し、保護者も含めて閲覧できるようにした。

指導計画 (全15時間扱い)

1 学期 導 入：1時間 「環境目標を決めよう」

- ・ 3年間の環境目標「ものを大切にしよう！」を提案する。
- ・ 紙リサイクルボックスの使用法説明、移動教室時の節電説明、水の無駄遣いについて説明する。

1 学期 展 開：13時間 「3 Rって何？」

- ・ 3 Rの重要性について説明する。
- ・ 環境問題全般について講演会を実施する。
- ・ 環境問題クイズ大会を実施する。
- ・ 校外学習に行く。

1 学期 まとめ：1時間 「校外学習のまとめ作成」

- ・ ガスエネルギー館で配布されたテーマカードと学習プリントのまとめを行う。
- ・ まとめたものの拡大掲示物を教師が作成し、1学期中掲示し閲覧させる。

【環境意識を育成し実践行動へとむすびつけるために工夫した点】

学校や家庭といった身の回りがある場所や暮らしを導入として、環境問題を自分の問題として捉えられるように配慮した。

環境目標を設定させることで、一人一人が環境に配慮した行動を意識できるように工夫した。

体験学習（校外学習）を行うことで、社会の環境への取り組みや、自然と人間の暮らしとの関わりについて気づけるように工夫した。

【単元・授業の流れと活動目標】

環境目標を決めよう（1時間）

学習指導要領
の対応

〔活動目標〕 学年の環境目標に向けて、自分にできる取り組みを考えさせる。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

環境目標を決めよう（1時間）
3年間の学年環境目標「ものを大切にしよう！」を提案する。紙蘇箱（リサイクルボックス）の使用方法説明・移動教室時の節電説明・水の無駄遣いについて説明する。
・節電・節水・ゴミ分別・紙蘇回収の説明を行う。

ねらい：身の回りの生活を見つめ直すことで、環境問題に関心をもち、学年の環境目標に向けて、自分にできる取り組みを考えさせる。

- ・どんな効果が得られるか、資料やエコ表（資料）を用いて説明。今後エコ表示がされることも説明。
- ・紙蘇回収とは、学校で使用した紙で、不要な（余分に印刷されたプリント類など、個人情報を書かれていない）紙を、A4、B5、A5サイズ別の大きさに分類し、教室に設置された回収箱に入れ、月に一度生活委員会が回収し、紙のリサイクル業者にわたすこと。分別には、大きさだけでなく、ビニールテープやステーブラー針が付いていないかも確認させる。2年生からは、名古屋市の方針転換によって、雑紙（小さな紙や封筒など）の回収も始めた。

- ・1年間の自分の環境目標と具体的な取り組み目標を考え記入する。
- ・エコ表示を各クラス及びWC、手洗い場に設置する。（授業後：美化委員）

- ・学期ごとに自己評価する（資料）。
- ・教室スイッチ板：節電表示、教室紙蘇箱付近：紙の利用現状表示、教室ゴミ箱：ゴミの分別表示、WC：節電・節水表示、手洗い場：節水表示、廊下スイッチ板：節電表示
- ・環境に関係のある雑誌や書籍等を学校で購入し、学級文庫として自由閲覧させる。
- ・ゴミ分別用にゴミ箱を購入し、各教室に設置する。

総合 P.14

技術・家庭
P.68

導入
（1時間）

3 R って何？ (13時間)

〔活動目標〕 今までの自分の生活を振り返り考えを改めたり深めたりする。

< 活動内容 >

< 指導、留意点 >

3 R って何？ (1時間)
リデュース(減量すること)、
リユース(繰り返し使用すること)、
リサイクル(分類し再利用すること)の重要性を、資料を用いて説明する。

「環境学習講演会」(2時間)
身近な環境問題についての講演会を実施する。

環境問題クイズ大会(1時間)
様々な環境問題についての環境問題クイズ大会を実施する。

校外学習に行こう(1時間)
校外学習のねらい、期日、場所を説明する。

藤前干潟ってどんなところ？(1時間)
・NHK環境アーカイブ「ゴミを食べた動物」の視聴
・ラムサール条約、藤前干潟とゴミ問題、干潟の生物について理解を深めるため、藤前干潟のパンフレット資料を用いて説明した。

ねらい：環境問題における3Rの重要性を理解し、今までの自分の生活を振り返り、考えを改めたり深めたりする。

- ・3Rの資料として、環境事業所から取り寄せた冊子を生徒個人に配布する。

ねらい：環境学習を始めるに当たり、環境問題を身近な問題として捉えることができるようになり、今後の取り組みへの意欲づけに結びつける。

- ・講演者を、NPO法人中部リサイクル協会に依頼した。
- ・保護者も参加できるようにした。
- ・講演会の後、講演内容をプリント(資料)にまとめた。

ねらい：様々な環境問題(ゴミ分別や絶滅危惧種など)クイズに取り組み、環境問題への関心を深めたり、正しいゴミの分別方法を身に付ける。

- ・クイズ大会の企画・運営は、美化委員会が中心になって行う。

ねらい：見学や活動などの体験をとおして環境問題を身近に感じさせる。

- ・ガスエネルギー館：地球温暖化を中心にエネルギーに関する環境学習
- ・藤前干潟：自然環境の保全活動への参加(清掃活動)を通じた環境学習

ねらい：ラムサール条約、藤前干潟とゴミ問題、干潟の生物についての理解を深める

ガスエネルギー館における環境学習
テーマを決めよう（1時間）

ガスエネルギー館における環境学習の
6つのテーマの中から、各班（1ク
ラス6班編成）で分担し、興味
のあるテーマを一つ選び学習を進めていく。

- ・学習テーマの説明を行う。
- ・各クラスで6つの環境学習テーマ
で班を分ける。

- A 地球が温暖化するとどうなるの
- B クリーンエネルギーで二酸化炭
素を減らそう
- C エネルギーを大切に使う
- D 新しいエネルギーで二酸化炭素
を減らそう
- E 家の中のエネルギー
- F 交通とエネルギー

調べ学習をしよう（2時間）

あらかじめ選んだ、ガスエネルギー館の
環境学習テーマごとに用意された
事前学習冊子（ガスエネルギー館で
配布されている資料）に沿った調べ
学習に取り組み、調べた内容を
事前学習プリントに記入させる。

校外学習（ガスエネルギー館見学＆
藤前干潟奉仕活動（5時間）

《ガスエネルギー館での環境学習》

グループ2つ（学習テーマA・B・
D・E）は、先に映像ホールにて映
像（エネルギー地球大紀行）鑑賞。

その後、導入部分で今後の予定
（実験・まとめの集合時間・場所
など）の説明を受ける。残りのグルー
プ（学習テーマC・F）は、導入・展示
見学ホールを自由見学する。

《藤前干潟での環境学習》

各クラス（4クラス）ごとの活動とし、
3クラスが藤前干潟での清掃奉仕
活動を実施中、1クラスが藤前干潟
環境学習施設でVTR視聴を行う。
1時間30分程度の活動の時間の中で、
ローテーションさせる。

- ・地球温暖化については、共通学習
資料を用いて必ず学習させる。
- ・PC室・図書室の利用も可能
- ・現時点での参考資料紹介

<見学コース種類>

- ・導入（5～10分）展示ホール見学・
映像鑑賞・実験・まとめ
- ・テーマカードを基に調べ学習に取り
組み、終わったら学習カードを基に
調べ学習に取り組む。

- ・ゴミの種類に着目させたり、ゴミが
どこからやってくるのか考えさせたり、
視聴したVTRのことを思い出させ
たりするなどしながら、ごみ拾い
活動を行い、環境問題を身近な
問題として意識させる。

校外学習のまとめ作成（1時間）

〔活動目標〕 校外学習のまとめを行い、学校に掲示する。

まとめ（1時間）

< 活動内容 >

校外学習のまとめ作成（1時間）
校外学習が終わった後、ガスエネルギー館で配布されたテーマカードと学習プリントのまとめを行う。
校外学習翌々日帰りまでにまとめたものの拡大掲示物を教師が作成し、1学期中掲示し、閲覧させる。

< 指導、留意点 >

- ・ 2学期学校開校日に合わせて、再度掲示し、保護者にも閲覧していただく。
- ・ まとめ原稿をもとに、クラス閲覧用1冊、教師用、学校保管1冊を印刷・製本して、学級文庫として自由閲覧させる。

国語 P.34

学習の効果・児童の変化について

生徒の変容

蔵前干潟の清掃活動では、あまりのゴミの多さに驚くだけでなく、VTRで見たゴミを拾う動物たちの姿を重ねて見た様子で、誰もが時間を過ぎても、ゴミ拾いに夢中になって取り組んでいた。それと同時に、ゴミがいったいどこから流れ着くのかといった点についても考え、人と動物の共生、人と自然の関わりなどについて見つめ直すと共に、自らのこれまでの生活を見直し、環境に優しい生活を心がけようという気持ちの高まりが見られた。

生徒の作文より～一部抜粋～

- ・ 最初の方は、全く興味が無いというよりは、自分に関係のないことだと思っていた。しかし、環境学習を進めるにつれ、「地球温暖化」の原因は、私たち人間にあると知った。それからは、自分の生活の中で、何気なくやっていることを見直すように心がけた。
- ・ ペットボトルはリサイクルできるから環境にいいと思っていました。が、実は環境に悪くて、水筒を使った方がよいということがわかりました。3Rをすることで、ゴミの無駄をなくすことができる。環境問題は、便利さと表裏一体ということが分かった。

〔資料〕

水を大切に

- 洗面したあとも、じわっとすすぎましょう。
- 水を使う時は、流しっぱなしは止めましょう。

水筒の瓶口から溢れてくるあつて、1秒間だけでもくわが漏れる？
瓶口から溢れるのは、1秒で30cc、約1滴。1分すると、1リットルも漏れに達してしまいます。
日本人の年間消費量は約150リットル。これを1リットルずつのペットボトルと見比べると、なんと1500本のペットボトルが、日本で消費されていることになります。同じ量の水を流していることにはなりません。

1分で12リットル

書籍でも、ごみのことを気にしてある
おついでに出る紙の量は、平均すると1人で1ヶ月に1人あたり4kg。これは、ごみ一輪の桶に換算するとA4用紙500枚入りリサイクル紙2つ分に相当します。おついで紙をリサイクルすれば、これだけの量を減らすことができます。

紙の使用量は、1人あたり1ヶ月 約4kg
A4用紙500枚入りリサイクル紙2つ分

ちなみに、経済産業省発表の「国別リサイクル率」によると、2009年の日本の古紙回収率は28.0%、また古紙利用率は20.9%となっています。

世界的に見ても、古紙利用率が高い日本です。しかし、日本で1年間に消費されるリサイクル紙（古紙製）の量は約440万トンです。このうち、古紙製紙に用いる紙材は、140万トン、日本でもっとも消費される200万トン（平均的な消費量）で計算すると、なんと1000万本の木が、日本で消費されるために伐採されたこととなります。（一人1年間の木を消費してしまってますね！）

書籍でも、ごみのことを気にしてある
おついでに出る紙の量は、平均すると1人で1ヶ月に1人あたり4kg。これは、ごみ一輪の桶に換算するとA4用紙500枚入りリサイクル紙2つ分に相当します。おついで紙をリサイクルすれば、これだけの量を減らすことができます。

紙の使用量は、1人あたり1ヶ月 約4kg
A4用紙500枚入りリサイクル紙2つ分

ちなみに、経済産業省発表の「国別リサイクル率」によると、2009年の日本の古紙回収率は28.0%、また古紙利用率は20.9%となっています。

世界的に見ても、古紙利用率が高い日本です。しかし、日本で1年間に消費されるリサイクル紙（古紙製）の量は約440万トンです。このうち、古紙製紙に用いる紙材は、140万トン、日本でもっとも消費される200万トン（平均的な消費量）で計算すると、なんと1000万本の木が、日本で消費されるために伐採されたこととなります。（一人1年間の木を消費してしまってますね！）

総合学習 学年目標「ものを大切にしよう」

環境学習の学年目標：「ものを大切にしよう」

- ねらい
- ① 物を大切にしよう。（落書き・器物破損など）
 - ② 節電・節水に取り組もう。（電気・水道など）
 - ③ ゴミの分別を徹底し、紙蘇箱を正しく利用しよう。

環境学習の個人目標：「

具体的な行動目標	自己評価(◎頑張った、○まあまあ、△不十分)			
	1学期	2学期	3学期	1年生

<今日の授業の感想> 分かったこと、分かったことをもとに考えさせられたことなど、できるだけ詳しく書きましょう。

1年 組 番 名前 ()

